

加藤精一博士古稀記念論文集
『真言密教と日本文化』抜刷
平成19年12月2日発行

『サーダナマラー』「仏頂尊勝成就法」
和訳およびテキスト

森 雅 秀

『サーダナマラー』「仏頂尊勝成就法」 和訳およびテキスト

森 雅 秀

はじめに

東アジアの仏教の広い範囲で信奉された陀羅尼に、仏頂尊勝陀羅尼 (uṣṇiṣavijayādhāraṇi) がある。この陀羅尼を説く漢訳経典は大正新脩大蔵經に 18 本を数え、さらに 4 本の悉曇本も収録されている。このうち、中国において最も広く流布した仏陀波利本の序文には、文殊の聖地五台山において、仏陀波利が文殊の化身の大聖老人に命じられ、仏頂尊勝陀羅尼をインドから請来したことが示され、この陀羅尼の来歴を伝えるエピソードとして、古くから知られている。中国では、陀羅尼を刻んだ経幢が唐代を中心に各地に建立されたが、その大半が仏頂尊勝陀羅尼であった。元代の西暦 1345 年に建造された北京市郊外の居庸関には、チベット、ランチャ、西夏、パクバ、ウイグル、そして漢字の六種の字体によって、仏頂尊勝陀羅尼が刻まれている。中央アジアの諸地域の文字によっても記されていることは、この陀羅尼に対する信仰が、いかに広範囲にわたるものであったかを示すものである。コータン語の經典類や敦煌文書の中にも、仏頂尊勝陀羅尼の写本が伝えられている。わが国へも、平安時代初期に伝来し、爾來、真言宗を中心に日々の勤行などでの常用真言として読誦されてきた。チベット大蔵經にもカンギユル部に 5 本の仏頂尊勝の陀羅尼經典が含まれる。

仏頂尊勝陀羅尼を説くこれら諸経典や儀軌、刻文等については、陀羅尼の系統分類を軸に数多くの研究がこれまでになされてきた。Max Müller と南条文雄による法隆寺写本を中心とする研究を嚆矢とし、干潟龍祥による陀羅尼の諸本の体系化、さらに戦前の調査にもとづく京都大学の『居庸関』などが、その中でも特筆すべきものであろう¹⁾。

このように、東アジアにおける仏頂尊勝陀羅尼の流行と伝播については、長年にわたる豊富な研究の蓄積があるのに対し、それを生み出した地であるインドの仏頂尊勝信仰に関しては、これまでほとんど取り上げられることがなかった。仏頂尊勝陀羅尼がインドに現れた背景や、どのように信仰され、流布していったのか、あるいは、その信仰形態は中国や日本のそれとどのような関係にあるのかなどが、まったく問題にされてこなかったのである。

一方、インドに接し、大乘仏教や密教の伝統をインドから継承したネパールでも、仏頂尊勝陀羅尼は単独で、あるいは他の重要な陀羅尼とともに、広く信仰されたことが知られている。さらに、この陀羅尼の尊格である仏頂尊勝そのものへの信仰も広く見られ、画像や彫刻などの作例も多い。人生儀礼や仏塔信仰とも結びついている。ネパールにおける仏頂尊勝信仰の流行は、おそらくチベットのそれとも密接な関係があるが、そのいずれに対しても、これまで十分な研究がなされてきたとは言いがたい。

中国や日本などの東アジアや、中央アジアの諸地域における仏頂尊勝陀羅尼の豊富な研究を視野に入れながら、インドを中心とする南アジアでの、その信仰形態を探ることは、アジアの仏教文化の伝播と変容を知るための格好のテーマとなるであろう。本稿はそのための素材のひとつとして、インド密教の成就法文献『サーダナマラー』(Sādhana-māṭā) に含まれる3篇の仏頂尊勝陀羅尼を訳出し、あわせてサンスクリットとチベット訳テキストを示す。

『サーダナマラー』はさまざまな尊格の成就法 (sādhana) を集成したサンスクリット文献で、初期密教から後期密教にいたるまでの広範な時代の尊格が含まれる。その原型は 11 世紀から 12 世紀にかけて活躍したアバヤーカラグプタ (Abhayākara Gupta) によって編纂され、その後、次第に増広されたと考えられている。

Bhattacharyya による『サーダナマラー』校訂テキストには 312 篇の成就法が含まれ、仏頂尊勝の成就法はその第 191、211、212 番に相当する。いずれも仏頂尊勝の尊容についての記述を中心とするが、第 191 番がそれに布置観を加えたのみの短い成就法であるのに対し、第 211、212 番は、観音と金剛手の 2 尊の脇侍菩薩と、アチャラ、ニーラダンダ、マハーバラ、タッキラージャの四忿怒尊にも言及している。これらの眷属尊は、宋代の法天訳『一切如来烏瑟膩沙最勝総持経』(大正蔵、第 978 番、985 年訳出) にも含まれ、仏頂尊勝を含む各尊の特徴も同経とほぼ合致している。第 212 番はシュローカ 23 偈で構成され、文学的な表現をこらしている点に特徴がある。いずれの成就法にも、仏頂尊勝陀羅尼そのものが説かれていないことも注目される。陀羅尼への信仰が、これらの文献の時代にはすでに稀薄になっていたのであろうか。なお第 211 番にのみ「華鬘の真言」(mālāmantra) と呼ばれる比較的長文の真言が現れるが、これも法天訳『総持経』に含まれる「如来無量寿総持法門」という陀羅尼にほぼ一致する。

和訳、サンスクリット及びチベット訳テキスト

凡例

- ① 以下に示したのは『サーダナマラー』の第 191、211、212 番の和訳とサンスクリット (S) 及びチベット訳テキスト (T) である。
- ② サンスクリット・テキストは Bhattacharyya (1968) にもとづく。該

『サーダナーラー』「仏頂尊勝成就法」和訳およびテキスト（森）

当箇所は第 191 番が p. 394、第 211 番が pp. 417-8、第 212 番が pp. 419-421 である。

- ③ チベット訳テキスト是北京版 (TTP) と台北版 (Taipei ed. D) を校合した。各成就法に該当する文献の書誌データは以下に示した通り。タイトルはいずれも gTsug tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs (Uṣṇiṣa-vijayāsādhanaṃ) である。なお第 191 番のみ 3 種のチベット訳がある (T1, T2, T3)。

第 191 番：〈T1〉TTP, No. 4071, Vol. 80, 197.5.7-198.1.6; Taipei ed., No. 3253 (= Toh. No. 3248), Vol. 31, 26.3-27.1.

〈T2〉TTP, No. 4198, Vol. 80, 245.1.2-8; Taipei ed., No. 3362 (Toh. No. 3377), Vol. 32, 104.3-7.

〈T3〉TTP, No. 4402, Vol. 81, 36.5.1-7; Taipei ed., No. 3585 (Toh. No. 3580), Vol. 32, 429.5-430.2.

第 211 番：TTP. No. 4423, Vol. 81, 42.4.2-43.1.6; Taipei ed., No. 3606 (Toh. No. 3601), Vol. 32, 452.1-453.7.

第 212 番：TTP. No. 4423, Vol. 81, 43.1.6-43.4.2; Taipei ed., No. 3607 (Toh. No. 3602), Vol. 32, 454.1-455.7.

- ④ 内容にしたがっていくつかの段落に分けた。翻訳上補った語は [] で示した。

- ⑤ 第 212 番は翻訳とテキストの対応の便を図り、各偈に通し番号を付した。

第 191 番

仏頂尊勝に帰依します。

前述の儀軌にしたがって²⁾、月輪の上に、白い「ブルーム」字から生じた、白色で、三面三眼をそなえ、若々しい容貌を持ち、さまざまな装

身具で飾られた、八臂の世尊を想起せよ。右と左の顔は順に黄色と黒で、右の四臂は羯磨杵、蓮華の上にある仏像、矢、与願印で、左の四臂は弓、期剋印をともなう縋索、施無畏の手、満瓶を持つ。仏塔の内部にいる。額には毘盧遮那を印す。[このような姿を] 完成させ、心臓の上に、蓮華に載った自らの種子を念想せよ。

つぎに、頭頂、額、喉、臍、両足に、順にフーム、トラーム、フリーヒ、アム、アハの五つの文字を観察せよ。次にマントラを唱えよ。「オーム、ブルーム、スヴァーハー。」

仏頂尊勝成就法。

S: nama uṣṇīṣavijayāyai /
pūrvvoktavidhānena candre sita-*bhrūṃ*-kārajāṃ śuklāṃ trimukhāṃ
trinetrāṃ navayauvanāṃ nānālaṅkāradharāṃ aṣṭabhujāṃ bhagavatīṃ
cintayet pītākṛṣṇadakṣiṇetaravadanāṃ dakṣiṇacaturbhujaiḥ viśvavajra-
padmasthabuddhabāṇavaradamudrādharāṃ vāmacaturbhujaiḥ
cāpatarjjanīpāśa-abhayahastapūrṇakumbhāḥ caityaguhāgarbhashtitāṃ
vairocanamukuṭinīṃ niṣpādyā svabījaṃ padmasthaṃ ḥṛdi dhyāyāt /
tadanu śikhālālāṭakaṅṭhanābhicaraneṣu yathākramaṃ *hum trāṃ hrīḥ*
aṃ aḥ iti pañcākṣarāṇi paśyet / tato mantraṃ japet *oṃ bhrūṃ svāhā* /
// uṣṇīṣavijayāsādhanam //

T1: rgya gar skad du / uṣṇīṣavijayāsādhanam / bod skad du / gtsug
tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs / gtsug tor rnam par rgyal ma la
phyag 'tshal lo /

sngar bshad pa'i rim pas zla ba la yi ge *brūṃ* dkar pos bskyed pa'i
bcom ldan 'das³⁾ ma dkar mo zhal gsum spyang gsum ma / gzhon nu ma
lang tsho la bab pa⁴⁾ / rgyan thams cad dang ldan pa'i phyag brgyad

ma bsam par bya ba'o // g'yas pa dang cig shos kyi zhal ni ser mo dang
nag mo'o // g'yas kyi phyag bzhi na ni sna tshogs rdo rje dang / padma
la bzhugs pa'i sangs rgyas⁵⁾ dang / mda' bsnam pa dang / mchog⁶⁾
sbyin pa'i phyag rgya'o // g'yon gyi phyag bzhi na ni gzhu dang bsdigs
mdzub dang zhags pa dang / mi 'jigs pa sbyin pa'i phyag gis bum pa
gang ba'o //

mchod rten gyi nang na bzhugs pa ste / dbu rgyan la rnam par
snang mdzad bzhugs pa nges par rdzogs par byas la / rang gi sa bon⁷⁾
padma la gnas pa snying gar bsgom par bya ba'o //

de'i rjes la spyi bo dang mgrin pa dang dpral ba dang / lte ba dang /
rkang pa rnams la rim pa ji lta ba bzhin du *hūṃ trāṃ hrīḥ aṃ aḥ* zhes
bya ba'i yi ge lnga po 'di blta bar bya ba'o // de nas sngags bzlas par
bya ba ni / *oṃ bhrūṃ svāhā* //

gtsug tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs so // a bha ya'i zhal snga
nas dge slon tshul khriṃs rgyal mtshan gyis bsgyur ba'o //

T2: rgya gar skad du / uṣṇīṣavijayasādhanam / bod skad du / gtsug
tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs / gtsug tor rnam par rgyal ma la
phyag 'tshal lo //

sngon du bstan pa'i cho gas zla ba la *bhrūṃ* dkar po yongs su gyur
pa las zhal gsum ma / spyan gsum ma / lang tsho gsar⁸⁾ la bab pa / lta
rdzas gyi rgyan dang na bza' dang ldan pa / phyag brgyad pa'i gtsug
tor rnam par rgyal ma bsam par bya'o // ser bo dang nag po ni g'yas
pa dang cig shos kyi zhal lo // g'yas kyi phyag bzhi rnams su sna
tshogs⁹⁾ rdo rje dang / padma la gnas pa'i sangs rgyas kyi sku dang /
mda' dang mchog sbyin ma'o // g'yon gyi phyag bzhi rnams su gzhu
dang / sdigs mdzub dang bcas pa'i zhags pa dang / mi 'jigs pa'i¹⁰⁾ phyag

rgya dang / bum pa gang ba'o //

mchod rten gyi phug gi khong¹¹⁾ na gnas par bskyed la / padma la gnas pa'i sa bon snying gar bsam par bya'o //

de'i rjes su spyi bo dang / dpral ba dang / mgrin pa dang / lte ba dang / rkang pa rnams su go rims bzhin du *hūṃ trāṃ hriḥ am aḥ* zhes bya ba'i yi ge'i rnam par bsam par bya'o // *oṃ bhrūṃ svāhā* / bzlas pa'i sngags so //

gtsug tor rnam par rgyal ba'i sgrub ma'i¹²⁾ thabs rdzogs so // paṇḍita don yod rdo rje dang / khams pa lo tstsha¹³⁾ ba dge slong ba ris bsgyur cing zhus so //

T3: rgya gar skad du / uṣṇīṣavijayasādhanam / bod skad du / gtsug tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs / gtsug tor rnam par rgyal ma la phyag 'tshal lo //

'dir sngon du gsungs pa'i cho gas zla ba la *bhrūṃ*¹⁴⁾ yig dkar po las skyes pa'i sku mdog dkar mo / zhal gsum pa / spyang gsum pa / lang tsho gzhon pa / rgyan thams cad kyis brgyan pa / phyag brgyad dang ldan pa'i bcom ldan 'das ma bsam par bya'o //

ser po dang nag po ni g'yas dang cig shos kyi zhal lo / g'yas kyi phyag bzhi rnams su sna tshogs rdo rje dang / padma la gnas pa'i sangs rgyas dang / mda' dang / mchog sbyin gyi phyag rnams so // g'yon gyi phyag bzhi rnams su gzhu dang / sdigs¹⁵⁾ mdzub dang bcas pa'i zhags pa dang / mi 'jigs pa'i phyag rgya dang / bum pa gang ba'o //

mchod rten gyi phug gi nang du¹⁶⁾ bzhugs pa / rnam par snang mdzad kyis dbu brgyan par bskyed nas rang gi sa bon padma la gnas pa snying gar bsam par bya'o // de'i rjes su spyi bo dang / dpral ba dang / mgrin pa dang / lte ba dang / rkang pa rnams su go rims ji lta

ba bzhin du *om hūṃ hrīḥ aṃ aḥ* zhes pa'i yi ge rnam s blta bar bya'o //
de nas sngags blzas par bya'o // *om bhrūṃ svāhā* / gtsug tor rnam par
rgyal ma'i¹⁷⁾ sgrub thabs rdzogs so //

第 211 番

吉祥なる仏頂尊勝に帰依します。

はじめに真言行者は洗顔などを行い、安楽な坐法をなし、四梵行¹⁸⁾を修習せよ。その後、自分の胸にある「ア」という文字を変化させ、月輪を念想し、その上に白い「ブルーム」字を見て、そこから発せられる光のかたまりによって世界を観察し、前にはすべての仏と菩薩を想起し、供養、懺悔などをなせ¹⁹⁾。次に「オーム、空の智慧の金剛を、私は自性とする」[と唱える]。

次に、ふたたび、自分の胸にある月輪に「パム」の文字から生じた無数の花卉を持つ蓮華を念想し、その上に月輪の中央に準備された「ブルーム」の文字を見る。それを変化させた仏頂尊勝を見よ²⁰⁾。仏塔の内部に住し、身色は白、三面で三眼、八臂をそなえる。あらゆる装身具に飾られ、無数の花卉の蓮華の上の月輪に住し、金剛跏趺坐を組み、中央の面は白、右は黄色、左は青、牙が唇を押さえる。右の四臂には羯磨杵、赤蓮華にのった勝者である無量光、矢、与願印、左の四臂には弓、期剋印を示しつつ絹索、施無畏印、賢瓶。額には毘盧遮那 [の印]。神々しい衣を身にまとい、白い輝きに包まれている姿を見よ。

彼女の右には世自在、左手には蓮華を持ち、右手には払子。左には金剛手、睡蓮の花卉の緑色をする。左手には睡蓮の上ののった金剛杵を持ち、右手には払子。これら 2 尊が坐っているのを念想しなければならない。

次に、東南西北に、アチャラ、タッキラージャ、ニーラダグダ、マハ

ーバラ。すべて身色は青、二臂、一面、三眼、展左で立つ。虎皮の腰巻きを付け、髪の毛は逆立つ。八龍を飾る。無数の花卉を持つ蓮華の上の日輪で姿勢をとる。左手は [いずれも] 絹索をともなった期剋印、右手には剣、鉤、金剛杵、杖を持つことを観想しなければならない。

上方には浄居天の二人の天子を想起せよ。満瓶にたたえられた甘露を降らせている。

このように眷属をともなった世尊母を念想し、布置観を行え。オームを頭頂に、アーハを喉に、フームを心臓に、トラームを額に、フリーヒを臍に、アムとアハを両足に。

次に印を結べ。合掌をして、人差し指を曲げ、中指と親指で善哉の形を与え、オームの声を三回唱えるあいだ保ち、[次のマントラを] 一回唱え、その後、印を結ばないで唱えよ。「オーム、ブルーム、スヴァーハー」というのが、心真言である。「オーム、不死の命を与える者よ、スヴァーハー」というのが、極上の心真言である。「オーム、無量なるものよ。無量なるものから生じたものよ。無量の輪の究極なるものよ。無量の大地よ。無量の行く者よ。無量の寿命を与える者よ。虚空の名声を与える者よ。すべての煩惱を滅するものよ。スヴァーハー」というのが「華鬘のマントラ」である²¹⁾。

吉祥なる仏頂尊勝の成就法終える。

S: nama āryyoṣṇīavijayāyai /

prathamam tāvan mantrī mukhaśaucādikaṃ kṛtvā sukhāsanopaviṣṭaḥ
caturbrahmavihārān bhāvayet / tadanantaram svahr̥dy-a-kārapariṇataṃ
candramaṇḍalaṃ dhyātvā tadupari sita-bhrūṃ-kāraṃ dṛṣṭvā tadvi=
nirgataraśmisamūhair jagad avabhāsyā purataḥ sarvvabuddhabodhi=
sattvān vicintya pujāpāpadeśanādikaṃ kuryyāt / tataḥ om śūnyatā=
jñānavajrasvabhāvātmaḥ 'ham /

tataḥ punar api svahṛdīndau *paṃ-kārajaṃ* viśvadalakamalaṃ dhyātvā tadupari candrabimbamadhyaśaṃsita-*bhrūṃ-kāraṃ* dṛṣṭvā tatpariṇatāṃ uṣṇīṣavijayāṃ caityaguhāntaḥsthāṃ sitavarṇāṃ trimukhāṃ trinetrāṃ aṣṭabhujāṃ sarvvālaṅkārabhūṣitāṃ viśvadalakamalacandrasthāṃ baddhavaḥrajraparyāṅkāṃ prathamāsītavadanāṃ dakṣiṇe pītamukhāṃ vāme nīlamukhāṃ daṃṣṭrāpuṭāvaṣṭabdhausṭhāṃ dakṣiṇacaturbhujēṣu viśvavajraraktāravindastha-amitābhajinaśaravaradahastāṃ vāmacatur= bhujēṣu dhanuḥṭarjjanīpāśa-abhayabhadraghaṭahastāṃ vairocana= mukuṭinīṃ divyavasana-paridhānottariyāṃ sitaprabhāmālinīṃ paśyet /

tasyā dakṣiṇe lokesvaro vāme padmadhāri dakṣiṇe cāmarahastaḥ, vāme vajrapāṇiḥ kuvalayadalaśyāmaḥ vāme kuvalayasthavajradhāri dakṣiṇe cāmarahastaḥ / etau niṣaṇau cintanīyau /

tataḥ pūrvvadakṣiṇapaścimottareṣu acalaṭakkirājanīladaṇḍamahā= balāḥ / sarvve nīlā dvibhujā ekamukhāḥ trinetrāḥ pratyālīdhā vyāghracarmmābarā ūrddhvakeśā aṣṭanāgābharaṇā viśvadala= kamalasūryyākrāntā vāme tarjjanīpāśahastā dakṣiṇe khaḍga-aṅkuśa= vajradaṇḍahastā bhāvanīyāḥ /

upari śuddhāvāsakāyikau devaputrau cintanīyau pūrṇakumbha= bhṛtāmṛtaṃ pravaraśamāṇau /

evaṃ saparivārāṃ bhagavatīṃ dhyātvā nyāsaṃ kuryyāt / oṃ śīrasi. āḥ kaṅṭhe, *huṃ-kāraṃ* hṛdaye, *trāṃ* lalāṭe, *hriḥ* nābhau, *aṃ aḥ* pādayoḥ /

tato mudrāṃ bandhayet sampuṭāñjaliṃ kṛtvā tarjjanyau saṅkocya , jyeṣṭhāṅguṣṭhābhyāṃ sādhu-kāraṃ dattvā oṃ-kāratrayasahitāṃ dhāraṇīm ekavāram āvarttya paścāt vinā mudrayā āvarttayet / oṃ. *bhrūṃ svāhā* hṛdayamantraḥ / oṃ *amṛtāyurdade svāhā* upahṛdayā= mantraḥ / oṃ *amite amitodbhave amitacakrānte amitagātre amitagāmini*

*amitāyurdade gaganakīrttikari sarvvakleśakṣayaṃkariye svāhā iti
mālāmantraḥ /*

// āryyoṣṇiṣavijayāsādhanam samāptam //

T: rgya gar skad du / uṣṇiṣavijayasādhanam / bod skad du / 'phags
pa²²⁾ gtsug tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs /

'phags ma gtsug tor rnam par rgyal ma la phyag 'tshal lo //

dang bor re zhiḡ sngags pas kha bsang ba la sogs pa byas nas / stan
bde ba la nye bar 'dug ste / tshad med pa'i gnas bzhi bsgom par bya'o //
de'i rjes la rang gi snying gar a yig yongs su gyur pa las zla ba'i dkyil
'khor bsams nas / de'i steng du *bhrūṃ* yig dkar po bltas la de las byung
ba'i 'od zer gyi tshogs kyis 'gro ba rnams gsal bar mdzad nas bdun du
sangs rgyas dang byang chub sems dpa' rnams bsams nas mchod pa
dang sdig pa bshags pa la sogs pa rnams bya'o // de nas *om
śūnyatājñānavajrasabhāva*²³⁾ *ātmaḡ haṃ* / zhes so //

de nas slar yang rang gi snying gar zla ba la *paṃ* yig las skyes pa'i
sna tshogs chu skyes bsams nas / de'i steng du zla ba'i dkyil 'khor gyi
dbus su gnas pa'i *bhrūṃ* yig dkar po bltas la / de yongs su gyur pa las
gtsug tor rnam par rgyal ma mchod rten gyi nang na²⁴⁾ bzhugs pa sku
mdog dkar mo zhal gsum pa / spyang gsum gsum pa²⁵⁾ / phyag brgyad pa /
rgyan thams cad kyis brgyan pa / sna tshogs chu skyes dang zla ba la
rdo rje skyil khrung bcings nas bzhugs pa / zhal dang po dkar po / zhal
g'yas pa ser po / zhal g'yon pa sngon po // mche bas ma mchu mnan pa
g'yas kyis phyag bzhi rnams su sna tshogs rdo rje dang / chu skyes dmar
po'i steng na bzhugs pa'i rgyal ba 'od dpag med dang / mda' dang /
mchog sbyin gyi phyag rgya rnams so // g'yon gyi phyag bzhi rnams su
gzhu dang / sdigs mdzud dang bcas pa'i zhags pa dang / mi 'jigs pa

sbyin pa'i phyag rgya dang / bum pa bzang po rnam so //rnam par
snang mdzad kyis dbu brgyan cing lha'i na bza'i stod g'yogs mnabs pa /
sna tshogs pa'i rgyan gyis brgyan pa / 'od zer dkar po'i phreng ba can
du blta bar bya'o //

de'i g'yas phyogs su 'jig rten dbang phyug²⁶⁾ g'yon na padma bsnams
pa / phyag g'yas na rnga yab bsnams pa'o // g'yon phyogs su phyag na
rdo rje sku mdog ut pala sngon po'i 'dab ma lta bu phyag g'yon na ut
pala la gnas pa'i rdo rje bsnams pa / phyag g'yas na rnga yab bsnams
pa de dag bzhugs par bsam par bya'o //

de nas shar dang lho dang nub dang byang phyogs rnam su mi g'yo
ba dang / 'dod pa'i rgyal po dang / dbyug sngon can dang / stobs po che
rnam thams cad sku mdog sngon po phyag gnyis pa / zhal gcig pa /
spyang gsum pa zhabs g'yon brkyang bas stag gi pags pa'i na bza'
mnabs pa / dbu skra gyen du brdzes pa / klu brgyad kyis brgyan pa
sna tshogs chu skyes dang nyi ma la bzhugs pa / phyag g'yon pa sdigs
mdzub dang bcas pa'i zhags pa bsnams pa / phyag g'yas pa rnam su
ral gri dang / lcags kyu dang / dbyug pa dang / rdo rje bsnams pa
bsgom par bya'o //

steng gi phyogs su gnas gtsangs ma'i ris kyi lha'i bu²⁷⁾ bdud rtsis
dkang ba'i bum pa bsnams shing bdud rtsi'i rgyun 'bab bzhin bsam par
bya'o //

de lta bu'i bcom ldan 'das ma 'khor dang bcas pa bsam zhing dgod
par bya'o // om̐ yig sbyi bor ro // āḥ yig ni mgrin pa la'o // hūṃ yig ni
snying gar ro // trāṃ yig dpral ba la'o // hrīḥ yig lte ba la'o // om̐ āḥ
rkang pa dag la'o // de nas phyag rgya bcing bar bya'o // thal mo yang
dag par sbyar nas mdzub mo bkug nas mthe ba chen dag dang sbyar
ba legs par²⁸⁾ sbyin par mdzad nas / om̐ yig gsum dang bcas pa'i

gzungs lan cig bzlas nas phyi nas 'dul ba'i phyag rgyas sngags bzlas
par bya'o // om bhrūṃ svāhā snying po'i sngags // om amrita āyurdade
svāhā / nye ba'i snying po'i sngags so // om amritāmrītodbhavaya
mritavikrānta amritagātaya amritagāminy²⁹⁾ amitāyurdade gaganakīrti=
kare sarvakleṣakṣayakāriye³⁰⁾ svāhā / zhes pa ni phreng ba'i sngags so //
'phags ma gtsug tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs rdzogs so //

第 212 番

(1) 蓮華、世界の王、禪定に執着せず、衆生を喜ぶものに帰依し、仏頂 [尊勝] への讃歌である成就法を、自分の記憶のために語ろう。

(2) どこか、僧院でも、あるいは快い場所で「よき王子の坐法」³¹⁾ を取るヨーガ行者は、心に思念せよ。

(3) そこには、衆生に幸福をもたらす、光り輝く「ブルーム」の文字が [ある]。それによって諸仏を觀照し、3度にわたって供養せよ。

(4) 供養し、眼前で彼らに対し、身などの業³²⁾ から生じ、所作などの相違から生じた罪を、教えを知る者は懺悔せよ。

(5) すべての喜ぶべき吉祥なことと、それから生じたものを淨化せよ。三宝に帰依せよ。戲論を順序どおりに [寂滅せよ]。

(6) 教えを堅固になし、菩提が完成するまで、衆生を慈悲によって支え、菩提心を [彼らに] 起こさせよ。

(7) 無量、無所依、無自性、虚空界のごときア字から生じた蓮華ののった月輪の上であるそこに、

(8) その文字 (ア字) から生じた女神を [觀想せよ]。三面、三眼、若々しい容貌を完備し、恋情などのラサをそなえ³³⁾、

(9) すべての仏の徳で満たされ、すべての装飾品で莊嚴され、光り輝

く衣装をまとい³⁴⁾、秋の空のごときもの、

(10) ジャンプ河の [金の] 輝きのすがたを持ち、寂靜の右の顔は輝きをそなえる。劫末の雲が現れた [ごとく] 恐ろしく、きわめて力強い [左の] 顔を持つ。

(11) あらゆる心と結びついた金剛杵を右手で [持つ]。第二臂には蓮華に坐した仏陀、もう一臂は矢を [持つ]。

(12) 第四臂で与願印を、左手でも順に、期剋印を伴う羅索、弓、また同様に施無畏印、

(13) 満瓶を持つと、また仏塔の内部にいると念想せよ。種子を伴った最上の蓮華がその心臓にあると想起せよ。

(14) その [蓮華の] 白い光の網にうながされてできた虚空は、仏陀の雲と、菩薩の大群衆で、一面に [満たされている]。

(15) 彼らもまた大いなる慈悲を本質とし、マントラによって³⁵⁾三世を転じている。彼らが灌頂を与えていると、つねに努力して念想しなければならぬ³⁶⁾。

(16) 仏塔の中にあり、オームの文字、輝くトラームとアーの文字、フム、フリーヒ、アム、アハというこの文字から生じたものが順に、

(17) 頭頂、額、喉、心臓、臍、足にあり、月輪の中央にのった大自在天を、ヨーガ行者は念想せよ。

(18) 秋の月の輝きを姿とし、発散される光線に包まれて、蓮華と金剛杵から [それぞれ] 生じ、右手には払子を持ち、

(19) 蓮華と金剛杵を持つ [観自在と金剛手] を、彼女(仏頂尊勝)の両側に [置け]。前にはたいそう醜いケーカラ³⁷⁾を、右にはタッキラージャを、

(20) 一方、後ろにはニーラダンダを、左にはマハーバラを安置せよ。 [順に] 剣、鉤、金剛杵、杖³⁸⁾を手にしっかりと持つ。

(21) 彼らは光きらめく [雷霆である] 金剛をそなえた劫末の雲の音をともない、夏の太陽が導く光によって、悪しきものの命を奪う者たちで

ある。

(22) 右手には期剋印を伴う羂索を持ち、左手は挙げる。無数の花卉の蓮華にのった日輪の上に、輝きの環に囲まれていると念想せよ。

(23) ヨーガを知る真言行者が、このように日夜、観想したならば、彼はすみやかに金剛乗を邁進する菩提を得るであろう。

仏頂尊勝成就法。

S: praṇamya padmaṃ jagannāthaṃ dhyānāsaktajagatpriyam /
uṣṇīṣārādhanam vakṣye svasmaraṇāya sādhanam // 1
kvacid deśe vihāre vā bhūdharādau manorame /
sukumārāsanāsīno yogī citte vicintayet // 2
sattvānāṃ śaṅkaram tatra sa-*bhrum*-kāram sphuratprabham /
buddhān tasyāvabhāsenā pūjayet tryadhvavarttinaḥ // 3
sampūjya puratas teṣāṃ pāpaṃ kāyādikarmmajam /
kṛtādibhedasañjātaṃ deśayed upadeśavit // 4
anumodyaṃ śubhaṃ sarvvaṃ tatprasūtaṃ viśodhayet /
triratnaśaraṇaṃ gacchet saprapañcaṃ yathākramam // 5
upadeśaṃ dṛḍhikṛtya yāvad ābodhisādhanam /
ālambya kṛpayā sattvān bodhicittaṃ vibhāvayet // 6
nirmmitaṃ ca nirālambaṃ niḥsvabhāvaṃ khadhātuvat /
tatra-*a*-kārodbhavāmbhojasthite śītāṃśumaṇḍale // 7
devīm tadbījasambhūtāṃ trimukhīm ca trilocanām /
navayauvanasampannāṃ śṛṅgārādirasāspadām // 8
sarvvabuddhaguṇākīrṇāṃ sarvvālaṅkārabhūṣitām /
prabhāliruddhasarvvāśāṃ śaradgaganasannibhām // 9
jāmbūnadaprabhākārāṃ śāntasavyānanojjalām /
pralayāmbhodharodbhāsibhīmativratarānanām // 10

viśvahrdayasamsaktakuliśaṃ savyapāṇinā /
dviṭiyenāmbujāsīnaṃ buddham anyena mārgaṇaṃ // 11
varadānaṃ caturthena vāmenāpi yathākramam /
tarjjanīnihitaṃ pāśaṃ cāpaṃ cāpi tathābhayaṃ // 12
dadhānāṃ pūrṇakumbhaṃ ca dhyāyāt caityaguhālayām /
sabijaṃ cintayet padmaṃ taddhṛdistham anuttaram // 13
tasya śuklaprabhājālacodanāsīlitaṃ nabhaḥ /
buddhameghair mahāvvyūhair bodhisattvaiḥ samantataḥ // 14
mahākṛpātmakās te 'pi manreṇa tryadhvavarttinaḥ /
cintanīyāḥ prayatnena sadā sekapradāyinaḥ // 15
caityāntargatam oṃ-kāraṃ trām-ā-kāraṃ prabhāsvaraṃ /
hum hriḥ aṃ aḥ ity etad bījajātaṃ yathākramam // 16
śikhālālāṭhakaṇṭhasthaṃ hṛnnābhicaraṇasthitam /
candraṃḍalamadhyasthaṃ dhyāyāt yogī maheśvaraṃ // 17
śaradinduprabhākārau sphuradgabhastimālinau /
kamalavajrasambhūtau savye cāmaradhāriṇau // 18
padmavajradharau tasyāḥ pārśvayoḥ savyavāmayoḥ /
kekaṃ purato 'tyugraṃ ṭakkirājaṃ ca dakṣiṇe // 19
nīladaṇḍaṃ tu pṛṣṭhasthaṃ vāme mahābalaṃ nyaset /
kṛpāṇāṅkuśasadvajradaṇḍasambhūtapāṇayaḥ // 20
sadvidyudvajrasampātapralayāmbhodaniḥsvanāḥ /
gṛiṣmārkanayanālokaduṣṭapṛāṇaharā amī // 21
savye tarjjanikāpāsair avasavyakarodyatāḥ /
jvālāmālākulā dhyeyā viśvapadmārkaṃḍale // 22
ittham aharnīśaṃ mantrī bhāvayed yastu yogavit /
sa prāpnoty acirād bodhiṃ vajrayānapravarttanīm // 23
// ity uṣṇīṣavijayāsādhanam //

T: rgya gar skad du / uṣṇiṣavijayasādhanam / bod skad du / gtsug
 tor rnam par rgyal³⁹⁾ ma'i sgrub thabs / 'phags ma gtsug tor rnam par
 rgyal⁴⁰⁾ ma la phyag 'tshal lo //
 bsam gtan ma chags 'gro la mnyis // 'gro mgon padma la btud nas //
 rang nyid sgrub thabs dran bya'i phyr// rnam par rgyal⁴¹⁾ ma'i sgrub
 thabs bshad // 1
 sa 'dzin la sogs yid 'ong ba'i // phyogs 'ga' zhig tu gnas nas ni //
 shin tu gzhon pa'i⁴²⁾ stan la 'dug // rnal 'byor bsam` bya bsam par bya // 2
 sems can rnams kyi bde 'byung ba // de⁴³⁾ la *bhrūṃ* bcas 'od zer 'phros⁴⁴⁾ //
 sangs rgyas rnams ni gsal byas nas // dus gsum gshags rnams mchod⁴⁵⁾
 par bya // 3
 mchod cing de rnams mdun tu ni // lus sogs las skyes sdig pa rnams //
 bgyid stsal dbye bas yang dag skyes // man ngag rig pas thams cad
 bshags // 4
 de las byung ba rnam par sbyang // dge ba kun la rjes yi rang //
 dkon mchog gsum la skyabs song nas // spros pa dang bcas rim pa
 bzhin // 5
 man ngag gis ni brtan byas nas // ji srid byang chub par tu bsgrub //
 brtse bas sems can rnams la dmigs // byang chub sems nyid bsgom par
 bya // 6
 mtshan med dmigs pa med pa yi // rang bzhin med pa mkha' dbyings bzhin //
 de la a yig las byung ba'i // chu skyes la gnas zla dkyil la // 7
 sa bon las byung lha mo ni // zhal gsum so sor spyang gsum pa //
 lang tsho gzhon zhing phun sum tshogs // sgeg pa la sogs nyam dang
 ldan // 8
 sangs rgyas kun gyi yon tan gang // rgyan rnams kun gyis rnam par

brgyan //

'od zer dang ldan na bza' ni // ston ka'i zla ba dang mtshungs pa // 9
dzaṃ bu nā da'i gser mdog can // g'yas pa'i zhal ni zhi ba'o //
dus mtha' me 'bar sprin bzhin 'phro // 'digs shing mi bzad g'yon pa'i zhal // 10
phyag g'yas nyid kyi thugs kar ni // sna tshogs rdo rje yang dag bsnams //
gnyis pa chu skyes steng gnas pa'i // sangs rgyas dang ni gsum par mda' // 11
mchog sbyin phyag rgya bzhi pa'o // g'yon na⁴⁶⁾ go rims ji bzhin du //
sdigs mdzub dang bcas zhags pa dang // gzhu dang de bzhin mi 'jigs pa // 12
bum pa gang ba bsnams pa ni // mchod rten nang bzhugs bsgom par bya //
snying gar sa bon dang bcas pa'i // padma bsam bya de steng du // 13
'od zer dkar po'i dra ba yis // bskul⁴⁷⁾ zhing gdan drangs nam mkha' la //
sangs rgyas sprin chogs chen po dang // byang chub sems dpa' mtha'
dag 'khod // 14

brtse chen bdag nyid de rnams kyang // rang rgyud dus gsum 'khor bar
bsam //

dbang bskur rab tu sbyin par mdzad⁴⁸⁾ // 'bad pas rtag tu bsam⁴⁹⁾ par
bya // 15

mchod rten nang bzhugs om dang trāṃ // āḥ⁵⁰⁾ yig 'od zer rab tu 'phro //
hūṃ hrīḥ aṃ āḥ zhes pa yi // sa bon las skyes go rims bzhin // 16
spyi bo dpral ba mgrin pa'i gnas // snying ga lte ba rkang pa'i gnas //
zla ba'i dkyil 'khor dbus gnas pa'i // 'jig rten dbang phyug rnal 'byor
bsam // 17

ston ka'i zla 'od dang mtshugs pa // 'od zer dag gi phreng ba 'phro //
chu skyes rdo rje dag las 'byung // g'yas pa dag gyis⁵¹⁾ rnga yab
bsnams // 18

padma rdo rje 'dzin pa dag // de yi g'yas g'yon logs su 'o //

mdun du mi g'yo ba dang ni // 'dod pa'i rgyal po g'yas phyogs su // 19

'gyab kyi phyogs su dbyug sngon can // g'yon du stobs chen dgod par bya //
 'al gri lcags kyu dbyug pa dang // rdo rje rnams ni phyag na bsnams // 20
 'glog bcas rdo rje ltung bzhin pa'i // dus mtha'i chu 'dzin dang mtshungs pa //
 'sryan ni sos ka'i nyi 'od bzhin // gdug pa rnams kyi srog 'phrog byed // 21
 kun gyi phyag g'yon rnams na ni // sdig mdzub dang bcas zhags pa
 'sbnams //
 od zer dbar ba'i 'phreng bas 'khrigs // sna tshogs padma nyi dkyil
 'ozhugs // 22
 'sngags pas nyin dang⁵²⁾ mtshan mo 'ru // rnal 'byor ldan pa 'di yis
 'osgom //
 'rdo rje theg par rab zhugs nas // de'i myur du byang chub 'thob // 23
 ces pa ni gtsug tor rnam par rgyal ma'i sgrub thabs rdzogs so //

註

- 1) Müller & Nanjyo (1884)、干潟 (1939)、村田編 (1965)。仏頂尊勝陀羅尼に関する研究については、塚本他編 (1989: 100-105) 参照。それ以降の主要なものとしては湯山 (2006a, 2006b)、Yuyama (1999) がある。
- 2) 「前述の儀軌」がどこを指すかは明らかではない。『サーダナマラー』の各成就法の冒頭には、しばしばこの語が現れる。当時、この文献を利用したものにとっては、自明のことであったのであろう。一般に成就法の準備段階では、四梵行や七種無上供養などを行ってから尊格を生起させる。成就法の基本的構造については拙稿 (2000) 参照。
- 3) 'das: P omits.
- 4) pa: P ma.
- 5) rgyas: P rgya.
- 6) mchog: P mchod.
- 7) sa bon: P sa bon la.

- 8) gsar: P sar.
- 9) tshogs: D tshogs kyi.
- 10) pa'i: P pa dang.
- 11) khong: P khongs.
- 12) ma'i: P ba'i.
- 13) tstsha: D tsā.
- 14) bhrūṃ: P bhūṃ.
- 15) sdigs: P sdig.
- 16) du: P na.
- 17) ma'i: P ba'i.
- 18) 慈悲喜捨の四無量心を起こすこと。
- 19) 七種無上供養を指す
- 20) 以下の仏頂尊勝と世自在、金剛手、四忿怒尊、淨居天子の尊容は、法天訳『一切如来烏瑟膩沙最勝総持経』（大正蔵、第 978 番、p.409a）の記述にほぼ合致している。
- 21) ほぼ同文のマントラが前註の法天訳の『総持経』にも含まれる (p.408c)
- 22) pa: P ma.
- 23) jñāna: P jñānā.
- 24) nang na: D drung du.
- 25) gsum gsum pa: D gsum pa.
- 26) phyug: D phyug sku mdog dkar po.
- 27) bu: P omits.
- 28) par: P pa.
- 29) amritāmritodbhavaya mritavikrānta amritagataya amritagaminy: D amite amitobhave amitavikrānte amitagate amitegāmini.
- 30) sarvakleṣakṣayakāriye: D sarvakleṣakṣayikariyai.
- 31) 「よき王子の坐法」については未詳。
- 32) 身口意の三業。

- 33) 成就法文献などでは表情のタイプを「ラサ」の語によって表現する。この偈と第 10 偈より、中央の面が「恋情」、右面が「寂靜」、左面が「忿怒」のそれぞれのラサをそなえることが示される。
- 34) この部分のサンスクリット・テキスト (prabhāliṛuddhasarvvāsām) は意味が不明。チベット訳にしたがう。
- 35) チベット訳は「心相続によって」。
- 36) 成就法の中で行われる諸如来と諸菩薩による灌頂については、拙稿 (2000: 33-34) 参照。
- 37) 「ケーカラ」は不動 (アチャラ) の異名。「ケーカラ」とは斜視のことで、不動の身体的特徴のひとつとして知られている。
- 38) チベット訳は「杖、金剛杵」の順。
- 39) rgyal: P rgyan.
- 40) rgyal: P rgyan.
- 41) rgyal: P rgyan.
- 42) gzhon ba'i: D 'jam pa'i.
- 43) de: P di.
- 44) 'phros: P 'phro.
- 45) mchod: P mchad.
- 46) na: P ni.
- 47) bskul: D bsbul.
- 48) par mdzad: P mdzad pa.
- 49) bsam: P bsams.
- 50) āḥ: P a.
- 51) gyis: P ni.
- 52) dang: P omits.

文献

Bhattacharyya, Benoytosh 1968 (1925) *Sādhnamālā* (2 vols.). G. O. S.

『サーダナマラー』「仏頂尊勝成就法」和訳およびテキスト（森）

Nos. 26, 41. Baroda: Oriental Institute.

Müller, M. & B. Nanjyo 1884 *The Ancient Palm Leaves, Anecdota Oxoniensia, Aryan Series, Vol. 1, part 3*, Oxford.

干潟龍祥 1939 「仏頂尊勝陀羅尼經諸伝の研究」『密教研究』68: 37-72.

森 雅秀 2000 「インド密教における成就法と儀礼」『高野山大学論叢』35: 23-43.

村田治郎編 1955 『居庸関 I・II』京都大学工学部.

塚本啓祥、松長有慶、磯田熙文 1989 『梵語仏典の研究 IV 密教經典篇』平楽寺書店.

Yuyama, Akira 1999 An Uṣṇīṣa-Vijayā Dhāraṇī Text from Nepal 『創価大学国際仏教学高等研究所年報』3: 165-175.

湯山 明 2006a 「不空音訳敦煌出土仏頂尊勝陀羅尼」『創価大学国際仏教学高等研究所年報』9: 231-276.

湯山 明 2006b “Miscellanea Philologica Buddhica (IV)” 『創価大学国際仏教学高等研究所年報』9: 277-296.

【キーワード】『サーダナマラー』、「仏頂尊勝成就法」、成就法、陀羅尼、仏頂尊勝